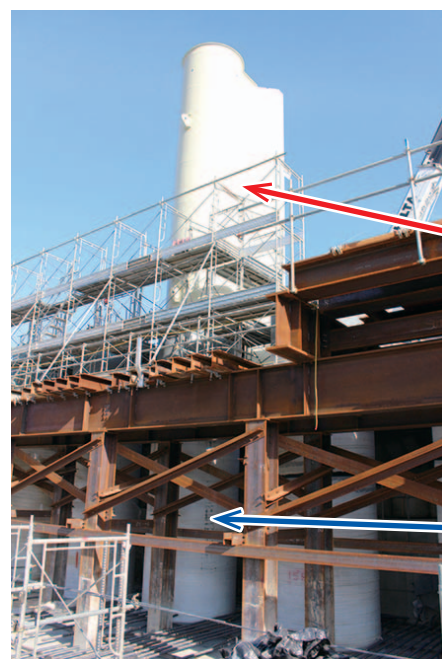


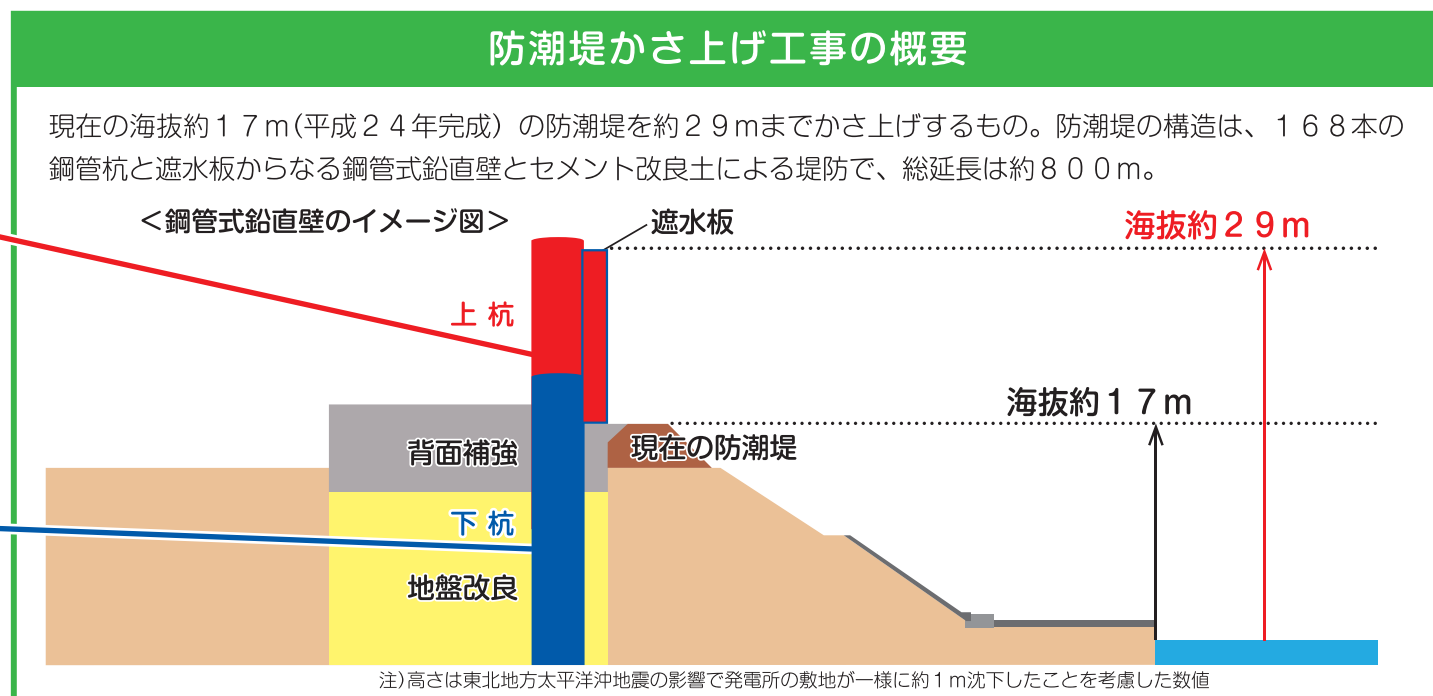
《「防潮堤かさ上げ工事」鋼管式鉛直壁（^{うわぐい} 海拔約29m）上杭の建込みを始めました》

防潮堤のかさ上げ工事は、平成25年5月の着工以来、地盤改良、鋼管杭（下杭）^{したぐい}の建込みなどを進めてきましたが、11月より上杭の建込みも開始しました。鋼管杭は、上杭と下杭の2段組みとなっており、上杭の頂部が海拔約29mになります。

平成28年3月の完成をめざし、引き続き、安全最優先に工事を進めてまいります。



陸側から撮影した上杭と下杭



上杭の建込みが始まった防潮堤

<上杭の建込み工程>



発電所岸壁に陸揚げし特殊車両で搬送



黄色で囲んだ箇所は、海側に面する遮水板。鋼管杭と遮水板の接合は工場で行い品質を確保している



大型クレーンで上杭を吊り上げる（写真の鋼管杭（上杭）は直径2.2m、長さ13.5m、重さ約24t）



設置済の下杭に上杭を建込む

《「こんにちは人形劇」を開催しました》

石巻市立鮎川小学校、女川町勤労青少年センターの2会場で、地域の保育園児、小学生を対象とした「東北電力こんにちは人形劇」を開催しました。

今回は、相手を思いやる心の大切さを伝える物語「幸せなびんぼう神」（鮎川会場）と切ない友情の物語「やさしい赤鬼と青鬼」（女川会場）を上演しました。

観劇したお子さんたちは、人形のユーモラスな動きに歓声を上げながら楽しい時間を過ごしました。



10月2日、「幸せなびんぼう神」を牡鹿、萩浜両保育所の園児と石巻市立鮎川、寄磯、大原、東浜の各小学校児童など約100人を対象に上演しました



10月17日、「やさしい赤鬼と青鬼」を女川町立第一、第四両保育所の園児と女川町子育てセンターの児童など約160人が観劇しました

《牡鹿中学校でエネルギー出前講座を開催しました》

11月26日、石巻市立牡鹿中学校の1年生から3年生54人を対象に、放射線出前講座を開催しました。

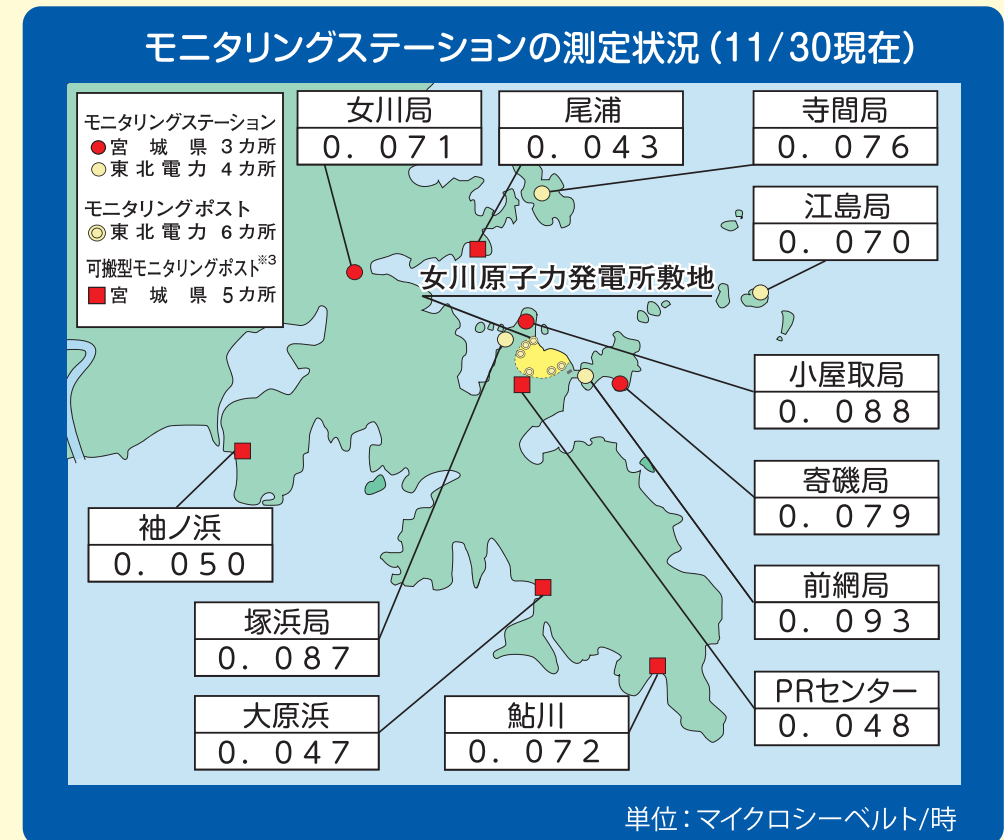
当日は東北放射線科学センターより講師を招き、放射線の基礎的な知識に関する講座に加え、放射線の飛ぶ様子を見ることができる簡易装置「霧箱」を使った放射線の観察などを行いました。参加者からは「先生の話をお聴く前は放射線が不安だったけど身近にあることが分かりイメージが変わった」などの感想がありました。



《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.063マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、1年後、2年後、至近3カ月の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

モニタリングポストの最小値と最大値		
平成23年	3月11日	0.027~0.064
	3月13日	1.8~21※4
平成24年	4月1日	0.063~0.098
平成25年	4月1日	0.055~0.076
平成26年	9月1日	0.046~0.069
	10月1日	0.046~0.064
	11月1日	0.043~0.068
	11月30日	0.043~0.063

単位：マイクロシーベルト/時